

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校	校長名	小関 雅司
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	○「規則正しい生活をしている（生活リズムが確立している）」と自己評価する生徒70%以上 ○「あいさつができる」と自己評価する生徒80%以上	○全体67% 1年66% 2年65% 3年69% ○全体83% 1年84% 2年83% 3年81%	B	○「規則正しい生活をしている」と自己評価した生徒は67%（昨年65%、一昨年62%）と年々数値が向上しているが、目標の70%には届かなかった。 ○「あいさつができる」と自己評価する生徒の割合は目標を超えたが、校内での挨拶行動を見る限りではまだ改善の余地がある。
イ	「主体的・対話的 で深い学び」 の視点からの 授業改善を推 進し、知的好奇 心を喚起する	○授業を大切に する生徒、主体的 に学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容が よくわかる」と自 己評価する生徒 80%以上 ○測定ツール(※) で把握した学力に 基づき授業改善に 取り組む教員 90%以上	○全体81% 1年86% 2年75% 3年81% ○全体82% 1年82% 2年79% 3年84% ○測定ツール により授業改 善に取り組ん だ教員100%	A	○「授業を大切にしている」「授業の内容がよくわかる」と自己評価した生徒の割合は目標を超えることができた。主体的・対話的で深い学び、ICTの活用の視点からの授業改善について一定の効果が出ている。 ○Google Classroomの導入、LBOに伴う各種設定、BYODへの準備を行った。 ○各学年において「静高模試」及び「学力テスト」について分析を行い、その結果が授業改善、3年生の進路指導に活用された。
ウ	低学年からの 高い志の育成 に努め、進路実 現を図る	○進路行事实施後 の進路意識の向上 ○第1志望（3年 次当初）の大学に 出願する生徒の割 合70%	○全体81% 1年83% 2年75% 3年85% ○第1志望出 願は48%で あった。	B	○新型コロナウイルス感染症への対応により先輩後輩交流会は教室での動画視聴方式で、進路講演会と医学部進学講座は対面式で行った。対面式の実施の方が講師の熱量や意識の高さが伝わりやすく、本物・実物の持つ力が再認識された。
エ	学校行事や部 活動に主体的 に参加し活動 するとともに 社会に貢献す る	○学校行事、部活 動に積極的に取り 組む生徒80%以 上 ○1部活1社会貢 献活動貢献活動 100%	○行事88% 1年90% 2年87% 3年88% ○部活85% 1年90% 2年81% 3年83% ○現時点では 貢献活動未確 定	B	○目標値が変更（昨年90%）されたため行事・部活動への積極的な参加は目標に到達した。 ○印高祭、修学旅行、HRデー（クラス遠足）等を実施することができた。昨年来の経験を生かし、感染症対策への工夫（仮装のライブ配信等）を行うことができた。 ○部活動による社会貢献活動は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標を達成できなかった。

様式第3号

オ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	<p>○朝の読書週間 年2回実施</p> <p>○図書館開放 年300日以上</p>	<p>○6月と10月の2回、朝読書週間を実施できた。</p> <p>○図書館開放は282日となる見込み。</p>	B	<p>○生徒は書籍に親しむ機会を求めているので、朝の読書週間（毎朝30分の読書）を実施できたことは概ね好評であった。</p> <p>○8月から9月末まで緊急事態宣言が出され、土日を閉館としたため、当初目標の300日以上の図書館開放には届かなかった。</p>
カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	<p>○学期1回以上の校内情報交換会</p> <p>○健康観察を通じたの情報共有</p> <p>○学習環境の美化に努める生徒の育成、学期1回の安全点検</p>	<p>○校内情報交換会を月1回実施した。</p> <p>○健康観察表による毎日の健康観察の実施。</p> <p>○全体73% 1年72% 2年70% 3年76%</p> <p>○学期1回の安全点検を確実に実施できた。</p>	A	<p>○学期1回の校内情報交換会に加え、週1回のコンサルテーション（カウンセラーを交えた情報交換会）、緊急性の高い生徒についてのケース会議等、時機を逃さない情報交換体制が整ってきている。</p> <p>○健康観察の結果は毎日集約され、管理職を含む関係者に回覧された。新型コロナ感染に関わる情報は、管理職及び養護教員に集約され、適切に対処することができた。</p> <p>○生徒の美化意識は年々向上している（今年度73%、昨年70%、一昨年70%）。廊下、ロッカー上の整理整頓もかなり改善された。</p>
キ	職員の校内外の研修を充実させる	<p>○教職員による「スクール・ポリシー」の共有</p> <p>○「育てたい資質・能力」を意識した授業改善に向けた研修機会の充実</p>	<p>○検討委員会、運営委員会、職員会議等を経て全職員に共有できた</p> <p>○校内研修を年3回、他校での研修に8名の職員が参加した。</p>	A	<p>○「授業改善」、「スクール・ポリシー」、「学習評価」をそれぞれテーマとして設定した校内研修会を3回実施した。</p> <p>○オンリーワン・ハイスクール予算を活用して延べ30回の授業力向上研修（オンライン及び集合形式）に教職員が参加した。</p> <p>○Find・アクティブラーナーを活用した授業力向上を行った職員もいた。</p>
ク	新学習指導要領に対応した教育課程の編成の実施及び土曜オープンスクールの充実を図る	<p>○「カリキュラム・マネジメント」の視点からの教カリキュラム完成</p> <p>○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1000人以上</p>	<p>○新課程の準備はほぼ完了した。観点別評価の方向性もほぼ定まった。</p> <p>○4回実施、延べ1499人であった。</p>	A	<p>○指導と評価の一体化を企図した観点別評価については、各方面からの情報収集に努めるとともに、成績評価のシミュレーション等による検証を重ね丁寧に議論を進めてきた。現在は概ね満足できる評価の方向性が定まってきている。</p> <p>○学校ホームページは部活動ブログなどを中心に、頻繁な更新により効果的な広報ができた。</p> <p>○オープンスクール参加者は昨年より100人以上増加した。</p>

様式第3号

ケ	<p>校内外のプログラムの活用を通し、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する。</p>	<p>○参加生徒、教職員の視野の拡大</p> <p>○各種プログラム参加者の増加と意識の向上</p>	<p>○エンパワーメントプログラムの実施、PDAディベート大会、WWL各種行事、県主催ポスターセッション等に参加した。</p> <p>○静岡大学によるデータサイエンス講座に工学部が参加した。</p> <p>○名大 MIRAI GSC プログラムには2名の生徒が参加した。</p>	<p>A</p> <p>○エンパワーメントプログラムは時期が冬休みに変更され、参加者は減少したが、参加者からは非常に好評であった。</p> <p>○WWL 高校生国際会議に参加した生徒は難しい課題設定が課されながらも企業へのインタビュー調査を行うなどして充実した内容の発表を行うことができた。</p> <p>○PDA即興型ディベート大会は ZOOM による開催となったが、参加者の一人はベストディベーターに選ばれた。</p> <p>○全国高校生フォーラムに参加した生徒は校内で Classi によるアンケート調査を行い、新しい食生活に関する分析結果を発表に生かした。</p> <p>○高校生グローバル課題ポスターセッショングループは大豆ミートをテーマとした研究を行った。</p> <p>○一部行事はオンリーワン・ハイスクール事業による支援を受け、生徒の経費負担を抑えることができた。</p> <p>○高校生レベルを超えた各種プログラムへの参加は本校生徒に大きな刺激となり、教育効果が高いと感じる。</p>
コ	<p>「学校における働き方改革」に組織的に取り組む</p>	<p>○行事、業務の見直しを行い、必要に応じて学校行事や業務を精選する</p> <p>○月1回の産業医への勤務状況報告と指導助言の実施</p>	<p>○職員会議のペーパーレス化、大学訪問、保育実習の見直し、定時退勤実施の徹底等の業務改善を行った。</p> <p>○時間外勤務が月80時間を超えた職員については月1回産業医に報告し、心身の健康維持に向けた指導助言を受けた。</p>	<p>A</p> <p>○計画していた行事の精選、パソコンによる職員会議への変更、定時退勤日の徹底は予定どおり行われた。ただし、観点別学習評価への対応、BYODの準備、新型コロナウイルスへの対応等で、業務量が増え、その効果は相殺されてしまった。</p> <p>○今後、産業医からの指導助言については職員全体で共有していきたい。</p>

※「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール：本校においては「静高模試」及び「学力テスト」